

9月1日（火）

おはようございます。

9月になりましたがまだ暑いため、登下校時にマスクを外している生徒がおります。いつも言っていますように、マスクをつけるのは、コロナウイルスから友達や家族を守るためであり、また他の人を守るためであり、ひいては自分をも守ることになります。暑くて呼吸しにくいというのはわかりますが、それでもきっちり取り組んでもらいたいと思います。

今日は松下幸之助の話をしたと思います。彼は、現在のパナソニックの創業者で、大阪の生野の出身で小学校しか出ていません。電気器具製作所から身を興し、今日のパナソニックを創ったのです。

会社を興したのは大正7年3月7日ということであります。初めのころは調子が良く、会社の規模も1000人近い社員数を抱えて、幹部社員も150人を超えて運営していました。自分自身は大阪市会議員に立候補して当選し、大阪に50台ほどしかないスポーツカーに乗るなどして、かなり意欲的にさまざまな活動にも取り組んでいました。

しかしながら、能力が高くて何でも器用にこなしてしまうことから、目標を達成してしまうたびにモチベーションが極端におちてしまうのでした。そこで、取引先の人に相談をします

「目標を達成するまでは頑張れるのだけれど、達成してしまうと心にぼっかりと穴が空いたようになるのです。次の目標が見いだせれば、立ち直れるのですがどうしたいのでしょうか」と。

するとその方が、「それはあなたに信仰心がないからです」と言われたそうです。その方は天理教の信者だったそうです。天理教には行きたくないとは思ったものの、話の行きがかり上、行かざるをえないと思い、天理教の本部に見学に行ったそうです。するとそこで信者の人が、「日の寄進」といって一生懸命掃除をされていた。普通ならここで、「奉仕活動をしているのだな」という話で終わるのですが、ここが松下幸之助のすごいところで、一生懸命掃除をしている人に話を聞いてみるのです。

「あなたの時給はいくらですか」と。

「そんなものはありませんよ。交通費も自費できています」と言われ、

「うちでは、給料を出してもここまでは働かないな。この差はなんだろう」と思った。

そこから考えに考え抜いて、これは崇高な使命感と、聖なる事業

であるという確信を持っているということではないか。そうであるからこそ、あれほど一生懸命に掃除ができるにちがいない。わが社の社員は、良心的ではあろうと思っ**て**はいるだろうが、さすがに崇高な使命感までは持っていないということに思い当たった。おそらく普通の人ならば、そこまで思い当たらないでしょう。

その当時、裕福な家なら、冬場には、石炭等でお湯を沸かして家事や生活の水を調達していましたが、貧しい一般家庭では冷たい水で家事をしていました。そこで、昭和7年5月5日に社員全員を集めて、

「冷たい水で家事をする母の手は**あかぎれ**だらけだ。これから、当座のわれわれの目標は、お世話になっているすべての母親の手の皸を直すことを目指そうと思う。そして、250年をかけて、わが社の製品で世界中の貧困を解消しようと思う」という趣旨の演説を行いました。その日、朝10時から始まった会議・集会は、社員全員による所信表明が始まったために、夕方の6時まで続いたそうです。

それをきっかけに社員一丸となり、あっという間に世界的企業に成長したのです。松下幸之助はこの年を、自分の真の使命を悟った年であるという意味で「命知元年」と命名し、この日の5月5日を松下電器の創業記念日と致しました。それが現在のパナソニックです。

簡単なことではありませんが、自分がやろうと思っ**て**いる事柄に対して自分なりの意味づけをすることによって、確信を持てるならば、モチベーションに大きな差が生まれるのです。自分だけでなく、周りの人を巻き込んで動かせるだけの力になっていくのだと思っ**た**ました。

昨年京都大学に合格した卒業生が、合格体験談の中で、「自分なりに、なぜその教科を勉強しなくてはならないかということを考え、自分で納得できる意味を見出した上で勉強を積み重ねた。」と書いていました。勉強を、ただなんとなくやるのではなく、また先生にやらされているというのではなくて、自分がやろうと思っ**て**いることに対して、どれだけの意味を見出せるか、そしてどれだけの確信を持つことができるかによって、より大きな目標の達成へと発展していくのです。

清風は先生方もみな、自利利他の道、「福の神コース」で皆を幸せにする人材を育成しようと一生懸命努めています。そのことに関しては、ほかのどの学校にも負けないと思っ**て**います。先生方が確

信を持って取り組んで下さっているからこそ、私たちの教育に説得力があるのだと思います。ですから諸君も、自分の思っている夢、例えば教科の一つのことであっても、そのことに対してじっくりと考え、勉強することに対して自分なりの意味を見出して取り組むことを習慣づけることができれば、その積み重ねが大きな成果を生み出すだろうと思います。

松下幸之助が、その特別な日を迎えることがなければ、おそらく今のパナソニックという世界的企業はなかったでしょう。彼が亡くなったならそれで終わったのではないのでしょうか。かれのDNAが現在どれほど受け継がれているかは分かりませんが、あれほどの企業に成長できたのは、彼のそのモチベーション、「われわれの仕事は、聖なる事業であり、崇高なる使命感を持って取り組まねばならない」という確信を実行したからこそであります。250年後にはだれも生きていない。しかしそれほどのことを思うことによって、まず自分のモチベーションを上げた。さらに、それを表明することにより社員全員のモチベーションを上げたのです。

諸君にとっての課題は、教科の勉強や自分の将来をどう考えていくのかということになりますが、自分なりの価値観を持ち、確信を持てるように考え抜いていくこと、それが自分の人生のベクトルを決めることになると思います。一度考えてみてほしいと思います。今朝の話はこれで終わります。

学校長